

競技上の注意

審判長 竹中正樹

【基本事項】

本大会においては原則として現行の日本卓球ルールを適用する。但し、以下の事項を考慮する。

- ・タイムアウトは適用しない。
- ・団体戦の抗議権を監督以外に主将にも認める。

【個別事項】

1. 団体戦は予選リーグおよび決勝トーナメントとも試合進行を早めるために以下の時間短縮策を導入する。
 - ・ダブルスは3ゲームマッチの11ポイント先取勝ちのデュースなし（最終ゲームのみあり）とする。
 - ・シングルスは5ゲームマッチの11ポイント先取勝ちのデュースなし（最終ゲームのみあり）とする。なお、団体戦は予選リーグおよび決勝トーナメントとも男子団体と女子団体Aは3点先取で勝ちとし、女子団体Bは2点先取で勝ちとする。
また、個人戦は時間短縮策を導入せずに通常のルールどおりに、全ての試合を11ポイントの5ゲームマッチで行い、3ゲーム先取で勝ちとする。
2. 使用球は日本卓球協会公認の「白色スリースター」40mmプラスチックボールで、ニッタク製（クリーンボール）、タマス製、VICTAS製の各コートに設置してあるものを使用することとし、サーバーを決めるジャンケンの前に選球ジャンケンを行い、勝者が使用球を選択する。なお、団体戦のマッチ毎に両者の使用希望球が異なる場合も同様に選球ジャンケンを行う。
3. 抗議は団体戦においては監督および主将が行うことができ、個人戦においては競技者のみが行うことができる。ただし、審判員による事実の判定に対して審判長に抗議することはできないが、審判員によるルールの解釈に対して審判長に抗議することができる。
4. アドバイスは団体戦においては所定のベンチ入りメンバーの誰からでも受けることができ、個人戦においてはベンチ入りメンバー（1名）のみからアドバイスを受けることができる。ただし、アドバイスは各ゲームの休憩時間に限り認められる。なお、団体戦のベンチ入り人数は、選手については事前に登録されたメンバーで男子団体・女子団体Aは8名まで、女子団体Bは4名までとし、選手以外については部長・監督・コーチのうちいずれか1名とする。
5. 試合開始前の練習は原則として3本ミスまでとし、ただし1分を超える場合はそこで終了する。また、ゲーム間の休憩時間は1分以内とし、1分を超えてもコートに戻らない行為はバッドマナーとなるので注意する。
6. ユニフォームに関しては、ダブルスおよび団体戦では同じユニフォームを着用する。なお、ユニフォームの色が対戦相手と似通っていても特別の処置は取らない。
7. サービスに関しては、以下のとおりとする。
 - ・サービス開始時にフリーハンドの手のひらを開き、ボールを乗せて静止させる。
 - ・ボールがフリーハンドの手のひらから離れた後、16cm以上上昇し打球される前になにもものにも触れずに落下するように、ボールに回転を与えることなくほぼ垂直にボールを投げ上げ、落下する途中を打たなければならない。
 - ・サービスを開始してから打球するまでの間、ボールは常にプレーイングサーフェスよりも高い位置でエンドラインの後方にななければならない。またその間、サーバーまたはダブルスのパートナーの体の一部、または着用している物でボールをレシーバーから隠してはならない。
 - ・ボールが手のひらから離れたら、すぐにフリーアーム（腕）とフリーハンド（手首から先）をボールとネット

トとの空間の外に出さなければならない。

8. 促進ルールに関しては、両方の競技者または組のポイントスコアの合計が少なくとも18ポイントに達した場合を除いて、ゲーム開始後10分を経過した場合は、促進ルールが適用される。また、両方の競技者または組から要請があった時には、いつでも促進ルールが適用される。
9. プレー進行中に生じた痙攣や疲労による競技の中断は原則として認めない。試合続行が不能となった場合には、その時点でその競技者は棄権負けとなる。しかし、事故の転倒などによる負傷で競技の続行が不能となった場合には、審判長の判断で最大10分程度の緊急中断を認めることがある。
10. ラバーの貼り替えはあらかじめ指定した場所で、日本卓球協会公認の接着剤のみを使用して貼り替えることができ、その他の競技場および会場内（駐車場を含む）の全ての場所での貼り替えを禁止する。また、揮発性有機溶剤含有の接着剤の使用を禁止し、違反者は失格とする。なお、競技中の貼り替えも禁止し、使用に耐えないラケットはスペアラケットおよび競技領域内での借用ラケットのみを許可する。
11. 審判に関しては、団体戦においては相互審判、個人戦の各種目1回戦および各日程における各コート第1試合においては選手番号の若い選手の大学による審判、第2試合からは敗者審判を原則とする。また、試合結果については団体戦、個人戦ともに敗者報告を原則とし、競技終了後速やかに本部席に報告する。なお、個人戦でSHUKANシステムを利用した場合は競技終了後の本部席への報告を省略することができる。
12. 団体戦の試合方式に関しては、以下のとおりとする。

＜男子団体および女子団体A＞

- ・4単1複（1番：ダブルス、2番～5番：シングルス）とし、2番のシングルスには1番のダブルスペア以外の選手が出場することにする。

＜女子団体B＞

- ・2単1複（1番・2番：シングルス、3番：ダブルス）とする。

13. 団体戦予選リーグの組み合わせに関しては、国公立大学卓球連盟の基準に従い以下のとおりとする。

＜男子団体および女子団体A＞

- ・前回大会の決勝トーナメントに出場したチームを対象にランクを設定する。
- ・ランクを設定したチームの内、今回大会に出場するチームを対象にシード該当チームとしてランク順に各リーグ（アルファベット順）の1番目に配置する。
- ・シード該当チーム以外のチームを抽選で各リーグの2番目から3～4番目までに配置する。

＜女子団体B＞

- ・全てのチームを抽選で各リーグの1番目から3～4番目までに配置する。

14. 団体戦予選リーグの試合順序に関しては、以下のとおりとする。

- ・3チーム（A、B、C）の場合：①B－C、②A－C、③A－B
- ・4チーム（A、B、C、D）の場合：①A－D、②B－C、③A－C、④B－D、⑤C－D、⑥A－B

15. 団体戦予選リーグの順位決定基準に関しては、以下のとおりとする。

- ・各リーグ1位チームが決勝トーナメントに出場できる。
- ・予選リーグの全試合の得点（勝者：2点、敗者：1点、棄権・失格：0点）を合計し、その合計得点の多いチームを上位とする。なお、相手チームの棄権・失格の場合は自チームの3－0勝ちとする。
- ・2チームの合計得点と同じ場合、二者間の対戦の勝者を上位とする。
- ・4チームのリーグ戦において3チームの合計得点と同じ場合、三者間の対戦のみを抜き出して得点を比較し、その合計得点の多いチームを上位とする。

- ・三者間の合計得点と同じ場合、三者間における得失マッチ率（＝得マッチ／失マッチ）の高いチームを上位とする。
- ・三者間の得失マッチ率が同じ場合、得失ゲーム率の高いチームを上位とする。

16. 団体戦決勝トーナメントの組み合わせに関しては、国公立大学卓球連盟の基準に従い以下のとおりとする。

＜男子団体および女子団体A＞

- ・第1シードは予選リーグAブロックの1位チーム、第2シードはBブロックの1位チームとする。
- ・第3シードは予選リーグCブロックの1位チーム、第4シードはDブロックの1位チームとするが、準決勝の組み合わせが前回大会と同じになる場合はシードを入れ替えることによって前回大会の組み合わせと異なるように決定する。
- ・第5シードから第8シードは予選リーグのEブロックからHブロックまでの1位チームの計4チームにより、予選リーグ終了後における抽選（予備抽選後に本抽選）で決定する。
- ・第9シード以降のシードは予選リーグのIブロック以降の1位チームの全チームにより、予選リーグ終了後における抽選（予備抽選後に本抽選）で決定する。

＜女子団体B＞

- ・全てを予選リーグ終了後における抽選（予備抽選後に本抽選）で決定する。なお、予選リーグが3ブロックの場合は、各ブロックの1位チーム同士による決勝リーグを実施する。

17. 個人戦の主要シードの組み合わせに関しては、国公立大学卓球連盟の基準に従い以下のとおりとする。

＜男女シングルス＞

- ・原則として男子はベスト32、女子はベスト16をシード該当選手とし、男子のベスト32シードは初戦を3回戦から開始する予定とする。

＜男女ダブルス＞

- ・原則として男子はベスト16、女子はベスト8をシード該当ペアとする。

18. 参加選手は各自が体調、怪我などに十分注意する。万一大会期間中に体調不良や怪我が発生した場合、看護師が対応するため本部に必ず申し出るようにする。また、選手全員が加入している傷害保険を必要に応じて利用できることを考慮する。

以上